

## 授業科目と授業概要

※ 3年間で履修する全ての授業科目の授業概要を示します。

	履修科目	講義などの内容	時期
基礎分野	生物学入門	看護学を学ぶ前に、「生」と「性」によって命を繋ぎ、継代的に進歩してきたヒトについて、生体に有利な解剖学的あるいは生理・生化学的な機能をどのように身体に取り込んでいったかを学ぶ。その理解により、健康と病気について基本的な考え方を身につける。	1年次前期
	論理的思考演習	科学的根拠に基づいた論理的思考力を育成し、また、論理的な表現能力を身に付け、看護実践領域で活用できる能力を養う。	1年次後期
	心理学	対象とする人間の心や行動を理解するために必要な理論を学ぶ。	1年次前期
	社会学	社会現象の実態や、現象の起こる原因に関するメカニズム（因果関係）等を、身近な個人、家族、ケア、ジェンダー、セクシュアリティコミュニティなどの視点で多角的に、時に批判的に、分析するための技法を習得する。現在、日本や世界で起こっている社会的現象や問題について理解を深め、地域で暮らす社会の一員としての位置づけについて洞察し看護者としての役割について理解を深める。	1年次後期
	国語リテラシー	文部科学省はこれからの時代に求められる国語力として、国語力は「知的活動」「感性・情緒」「コミュニケーション能力」などの基盤であり個人の自己形成にかかわる重要な能力である指針を示している。これからの社会人（医療人・看護者）としての基本として重要な理解する力と表現する力について学ぶ。	1年次前期
	生活と文化	高知県の歴史・文化および自然を学び、地域社会の特性や生活文化の特徴を理解することを通じて、健康、病気、医療に関する人々の認識が、地域社会や文化のありようからどのような影響を受けるのかを考えていく。また、健康、病気、医療をめぐる人々の認識の多様性に着目し、地域社会のなかの看護者としての役割について理解を深める。	1年次前期
	英語入門	国際化時代に対応出来るコミュニケーション手段としての総合的英語力、特に「聞く」「話す」能力を身につけること。英語で話すの恥ずかしさ、または偏見を克服し、外国語を楽しむこと。	1年次前期
	看護英語	医療従事者に求められる、英語を使った総合的コミュニケーション能力を身につける。	3年次後期
	倫理学	看護倫理とは何かを理解し、その重要性を学ぶ。保健医療福祉の現場で看護師が直面する倫理的課題について考察し、看護師としてどのような倫理が求められているかを理解し、基本的姿勢と態度を養う。	1年次前期
	人間関係とコミュニケーション（カウンセリング）	人間関係・コミュニケーション論の理論を基に心と行動に柔軟性が伴うよう必要とされるコミュニケーションを考え、理解を深める。また、現代社会における自己と他者の関係性を捉えものの見方を再考するとともにカウンセリングの理論と実践の基礎的能力を養う。	1年次後期
	教育学	グローバルとジェンダーの視点を導入し、かつ 歴史的変遷を踏まえ、教育学の基本概念について触れながら、子ども・教育・学校を取り巻く現状と課題について捉え、課題に対しどのような解決方法があるのかを思考できる能力を養う。	1年次前期
	運動と健康	個人や社会における生活習慣等に対する健康や運動の持つ役割に注目し、それらの現象や問題について多角的な視点で生涯にわたり豊かな生活を営むための健康や運動、スポーツの科学的・文化的認識や実践することの重要性を学ぶ。適切な運動実践と自己のライフステージや心身の状態に応じた身体活動や健康推進活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを主体的に形成する能力を養う。	1年次前期
	医療と情報科学	診療情報管理を行う上で必要な基礎的な知識の習得と実践的な能力を養う。IT 化の進む社会において、情報システムは欠くことのできない存在である。医療においても無数の情報システムが存在し、それらを結ぶ大規模な情報システムも存在する。これらの基本的な知識を取得する。また、テクノロジーと情報技術の活用を学び、医療、看護活動に役立てるための基礎的能力を身につける。	2年次前期

	履修科目	講義などの内容	時期
基礎分野	情報科学・演習	効果的な情報端末デバイスの活用を目指して、情報科学の基礎知識とその応用を学び、日常使われているソフトウェアやインターネットの正しい使用法について学ぶ。各自がパソコンを使って、基礎的なコンピューテラシーを習得し、看護現場において必要な情報通信技術に関する知識と技能を身につける。	1 年次前期
	社会人基礎力	社会人基礎力は、社会に出てどのような仕事についても求められる必要最小限度の能力である。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の基盤となる学びを、リフレクションの要素を取り入れながら、体験的に学び、「自ら気づき」「自ら育つ」力を養い社会に通用する組織人、専門職業人になるための基礎的な能力を育む。	1 年次前期
専門基礎分野	生化学	生体がどのような化合物で成り立っているか、またそれらの化合物がどのようにつくられ壊されて生体の恒常性が保たれているのかを理解する。	1 年次前期
	I. 消化器 個体維持のための物質産生とエネルギー産生を担う消化・吸収・排泄システム	経口摂取から始まり、最終的にはアミノ酸など身体構成の部品を作ってゆく上部消化管の消化吸収システムを学習し、各種残渣の排泄経路となる下部消化管についても学習する。消化システムは大きく胃から肛門までの管腔臓器系と肝臓などの実質臓器系に分かれる。各臓器系について解剖から生理について学習し、主要な疾患の病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。	1 年次前期
	II. 呼吸・循環・脈管系 1 酸素を取り入れるシステムと細胞代謝に必要な各種物質を循環させるシステム 1	この領域では酸素と二酸化炭素を交換する呼吸システムと、細胞の活動に必要な各種物質を循環させる心臓収縮から始まり、末梢まで循環させる循環器系を理解する。この領域では呼吸と循環を一体化させたシステムとしてとらえて解剖・生理を理解・学習するとともに、肺と心臓の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。この領域では心臓から血液を循環させる脈管系の解剖を理解し、部位特異性の主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また脈管を循環することにより、生体の細胞活動を担う血液やリンパ管に関連する主要な疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。	1 年次前期
	II. 呼吸・循環・脈管系 2 酸素を取り入れるシステムと細胞代謝に必要な各種物質を循環させるシステム 2		1 年次前期
	III. 内分泌・代謝 体の恒常性 (ホメオスタシス) を担うシステム 1	体の恒常性は内分泌系、腎臓の排泄・再吸収機能、肺機能など多臓器の働きにより電解質濃度や酸塩基平衡等を保つことで、体内外の環境の変化に対応している。この分野では、恒常性を保つ機序を解剖生理学的に理解し、関連する内分泌臓器の主要疾患について病態生理・症状・検査・治療を学ぶ。また細胞のエネルギー源である血糖のコントロールの生化学的機序を理解し、それに付随する疾患の病態生理・症状・検査・治療について学習する。	1 年次前期
	IV. 腎・泌尿器 体の恒常性 (ホメオスタシス) を担うシステム 2	体の恒常性をなうもう一つの臓器である腎臓の解剖、生理機能について学習する。特に、酸塩基平衡や電解質について他の臓器・器官との相互関連について学ぶ。そのほか血圧維持や造血について間接的に関与する腎臓の多面的機能について理解し、その主要疾患について病態生理・症状・治療を学ぶ。	1 年次後期
V. 感覚器・脳神経 情報取得、統合・判断、目的行動のシステム 1	ヒトは動く存在(homo mobilitus)であり、各臓器経由で種々の情報を取得して大脳に集め、大脳はそれを統合・判断して神経系を通じて運動器に伝達し目的行動を行う。各種情報を集める器官と統合・判断して運動器に伝えるシステムの解剖・生理を理解し、情報の流れの中での主要疾患について病態生理・症状・治療について学習する。	1 年次後期	

	履修科目	講義などの内容	時期
専門基礎分野	VI. 運動器 (整形外科) 情報取得、統合・判断、目的行動のシステム2	体を動かすシステムの中で実際の運動を担う器管である骨、関節、筋肉について解剖、生理について理解し、主要な運動器疾患について病態生理・症状・治療について学ぶ。	1 年次後期
	VII. 皮膚・免疫系 体を守るシステム・女性生殖器	ヒトは生命を維持し種をつないでいく中で、種々の環境要因の侵襲から体を守るシステムを作ってきた。物理的侵襲については皮膚や粘膜が大きな役割を果たし、身体内では主として白血球及びその生産物質が防御的に働いている。これら物理的、化学的な防御システムの解剖・生理を理解し、この分野の主要疾患について病態生理・症状・治療について学ぶ。	1 年次後期
	医学概論	医療の現場に入る前に、人間は疾病をどのようにとらえ、どのように対応してきたかの歴史を学ぶ。その中でも病因論、病理学の進歩、検査の進歩、治療の進歩について詳細に学び、看護に医学がどのように取り入れられていったかを学ぶ。また、医学の進歩により明らかにされてきた人体の機能について学び、検査、治療にどのように変化をもたらしていったかをみてゆく。	1 年次前期
	病理学	人体組織における正常機能を知り、病的状態の原因・発生機序、それらに対する体の反応などを理解する。	1 年次前期
	微生物学	病原微生物の種類・特徴・病原性・感染予防の方法ならびに生体防御機構（免疫）について学習する。	1 年次前期
	臨床栄養学	栄養に関する基礎的知識を学び、病態や栄養状態に基づいた適切な栄養マネジメントについて理解を深め、栄養療法的重要性を理解する。	1 年次後期
	薬理学	薬物の特性を知り、薬物作用に関する基礎的事項を理解し、薬物の作用と病態との関連性、薬物相互作用や副作用を学ぶ。また、薬物の管理について理解する。	1 年次前期
	リハビリテーション概論・演習	リハビリテーションの概念を理解し、リハビリテーション医療が必要となる人のセルフケア（自立・自律）支援に必要な援助方法を学ぶ。また、リハビリテーション医療にかかわる職種の役割とチームアプローチについて学ぶ。リハビリテーションにかかわる医療チームの中での看護師の役割を理解しリハビリテーション看護の独自性と特徴を身につける。	2 年次前期
	臨床推論	患者が語る症状や体が表す徴候をもとに患者の状態を正しくアセスメントする能力を養い、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるようにするために必要な基礎的能力を身につける。	3 年次前期
	医療と経済	社会構造の変化や価値観の変化により、現在の医療システムは大きく改革が進められている。医療の現状や国の施策や今後の見通しなどを理解し、医療における経済的視点を養う。	3 年次後期
	医療と安全	医療安全に関する定義や理念並びに主な概念と歴史について学ぶ。また、医療や看護におけるリスクや有害事象の実態と予防方法を学ぶと共に、国や組織における医療安全管理体制と安全文化形成に向けた取り組みについて学ぶ	1 年次後期
	健康生活と安全	人々は、災害や感染症の発生など、日常生活における危機的な状況を避けることはできません。危機発生の予防から発生時、発生後にかけて継続的に、対象者の安全確認や日常生活における注意点を理解し、健康管理を支援できる看護師としての役割を学び、生活支援ができる知識と方法を身につける。	3 年次後期
	社会福祉総論	保健・医療・福祉・行政に関する基本的仕組みを理解するとともに、最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。	3 年次後期
	公衆衛生学	将来の組織的保健活動に役に立つように人々の疾病を予防すること、より良い健康水準の獲得を目指すことを目標として、医学的、社会的、疫学的、行政的視点から、健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得する。	3 年次後期
	関係法規 (社会保障制度)	看護職として基盤となる医療関係法規や社会保障の柱である年金保険、医療保険、介護保険などの社会保険を理解し、医療専門職としての職責を正しく遂行するために法律の基礎的知識や社会保障制度などについて学ぶ。	3 年次後期

	履修科目	講義などの内容	時期
専門分野	看護学概論Ⅰ	看護の全体像を理解するための基本概念や社会における看護の機能と役割について学び、看護の本質、看護とは何か、またそれがどのような方向に発展しつつあるのかを共に考える。看護実践の基盤となる看護観を養う。	1 年次 前期
	看護学概論Ⅱ	看護実践のための提供システム、看護の多様な活動の場について理解するとともに、看護実践の基礎となる代表的な看護理論について基礎的な知識を学ぶ。	1 年次 後期
	ヘルスアセスメント	人が本来持っている生活のリズムを維持できるように身体的、心理的、社会的な視点からアセスメントする力を身につける。看護実践に活かすヘルスアセスメント（フィジカルアセスメント含む）の知識と技術、検査の読み方等を身につける。	1 年次 後期
	家族看護学	看護における家族の役割は大きく、家族の援助なしに患者・クライアントのケアは成立しない。我が国の家族役割の歴史の変遷や看護理論を理解するとともに、家族看護における看護者の役割や家族アセスメント、家族の関係性への支援方法などを習得する。	1 年次 後期
	看護過程演習	より良い看護を実践するための看護過程の展開とは何か、その意味と必要性が理解できる。そして、看護過程の各段階について内容が理解できるように、事例を用いながら必要な判断力と表現力を養う。	1 年次 後期
	看護研究Ⅰ	普段から問題意識をもつ必要性を理解し、看護研究についての基礎的な知識を学ぶ。そして、必要な文献や情報を検索し、関心のあるテーマに関する研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。	1 年次 後期
	基礎看護学方法論Ⅰ	看護を実践する基本となる看護技術とは何か、その概念を理解するとともに看護技術を身につけるための学習方法を習得する。そして、看護の対象である人間を知り、人間を取り巻くより良い環境の意味を理解し、必要な援助技術を身につける。	1 年次 前期
	基礎看護学方法論Ⅱ	人間の基本的な欲求である食事・排泄の意義を学び、食事摂取・排泄機能の障害が対象に及ぼす影響を理解し、対象に適した援助方法を身につける。	1 年次 前期
	基礎看護学方法論Ⅲ	看護は人間の生命に関わる仕事である。人間の健康を多角的に捉えることを目指し、バイタルサイン測定技術を習得し、対象の安全と安楽を考え援助する技術を身につける。	1 年次 前期
	基礎看護学方法論Ⅳ	清潔は人間の基本的な欲求の充足に必要な日常生活援助である。対象への配慮を考えながら具体的な援助技術を身につける。また、患者の安全を考え、感染予防の基礎知識を理解し、無菌操作の援助技術を身につける。	1 年次 後期
	基礎看護学方法論Ⅴ	診療の補助に伴う援助の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される治療、検査などに必要な基本的知識を理解し、援助技術の方法を身につける。	1 年次 後期
	地域・在宅看護総論	看護の対象は療養者を含めた地域で生活する人々であると捉え、地域・在宅看護活動で特徴的な集団や地域社会の理解を深めるための基礎的能力を身につける。ヘルスプロモーションの理念に基づき、健康で暮らしやすい地域や暮らしづくりについて学び、暮らしが健康に与える影響について学ぶ	1 年次 前期
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	地域・在宅看護の歴史の変遷を概観し、地域・在宅看護の定義や理念、地域・在宅看護活動の目的や基盤となる関連法規や制度について学習する。地域・在宅看護の対象者とその家族が住み慣れた地域で生活するための地域包括ケアシステムと看護活動、地域社会での活動方法や看護の機能と役割について学習する。また、在宅移行支援における多職種協働と看護の役割について学ぶ。	1 年次 後期
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	地域・在宅療養を支えるコミュニケーション技術、看護を展開するために必要な信頼関係形成のための技術、日常生活援助技術、医療管理技術など在宅において特有な看護技術に関する知識や方法を学ぶ。	2 年次 前期
	地域・在宅看護援助論Ⅲ	地域・在宅で看護を必要としている療養者とその家族に対して在宅生活を継続するための看護展開のポイントと展開方法について学ぶ。また、在宅で看護を展開するために必要な基本的マナーについて学ぶ。	2 年次 前期
	地域・在宅看護援助論Ⅳ	疾患の予防段階から終末期まで、地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際について学ぶ。在宅生活を継続するための安全・安心・安楽な暮らしの在り方を考える。	2 年次 後期
	地域・在宅看護援助論Ⅴ	地域・在宅で看護を必要としている療養者および家族の潜在能力を最大限に活用し、在宅生活を継続するための看護援助方法を学ぶ。事例を通して安全・安心・安楽な暮らしの在り方を考える。	2 年次 後期

	履修科目	講義などの内容	時期
専門分野	成人看護学概論	成人期にある対象者の特徴を発達段階に応じて、身体、心理、社会的側面で捉え、成人が抱える健康問題を広く理解する。また、成人期にある対象者やその家族に応じた看護を実践するための基盤となる主要な概念や理論を学び、成人期の対象者に応じた看護ケアの基礎的な方法を学ぶ。	1 年次後期
	成人保健	成人期の対象者を取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける成人期の健康課題について理解し、現在・将来の成人看護の方向性について学ぶ。	1 年次後期
	成人看護援助論 I	急性期、特に救急等クリティカルな状態にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ（各論・事例展開を中心に実施する）。 周手術期・呼吸器疾患患者の看護を主とする。	2 年次前期
	成人看護援助論 II	急性期、特に救急等クリティカルな状態にある対象者の身体的変化や心理的特徴を踏まえた効果的な看護援助の在り方を学ぶ（各論・事例展開を中心に実施する）。 循環器疾患、脳・神経疾患患者、消化器疾患患者の看護を主とする。	2 年次前期
	成人看護援助論 III	回復過程にある患者とその家族の特徴を理解し、再発予防を含めたリスク管理を行ないながら、活動を促進する看護の役割と方法を学ぶ。また、慢性疾患など生涯にわたり症状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と援助方法を学ぶ。 代謝・腎・泌尿器・自己免疫疾患患者の看護を主とする。	2 年次前期
	成人看護援助論 IV	人生の最終段階にある対象が尊厳を持って個の特性に応じた人生を送ることができるための看護実践を学ぶ。Adolescent and Young Adult (AYA)、トランジションなどの健康課題について成人期からの連続性と今後の人生・生活への影響を踏まえて包括的にアセスメントし支援する方法を学ぶ。	2 年次前期
	老年看護概論	老年期の特徴、加齢のプロセスと健康問題などについて学び、「老いを生きる」をささえることとは何かについて理解し、高齢期における看護の役割について学習する。	1 年次後期
	老年保健	高齢者を取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける成長・発達の特徴を知り、老年期の加齢に伴う変化について理解を深める。さらに保健医療福祉制度について理解を深める。	2 年次前期
	老年看護援助論 I	加齢と健康の関係や高齢者の健康段階に応じた看護の在り方を考え高齢者の日常生活の看護援助を学ぶ。また、高齢者及び家族のセルフケア能力をアセスメントし、その人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を理解できることを目指す。また認知症の高齢者の特性や看護について理解できることを目指す。	2 年次前期
	老年看護援助論 II	超高齢者社会において、最後までその人らしく生きることを支援するために、必要な知識・技術を学び、多職種チームの一員として看護職が果たすべき役割や基本的態度について考えることを目指す。	2 年次前期
	小児看護学概論	子どもが成長発達過程にあることを理解する上で基盤となる概念や理論を理解し、さまざまな健康レベルの子どもと家族の看護について学ぶ。	1 年次後期
	小児保健	子どもを取り巻く社会の動向やライフサイクルにおける小児期の健康課題について理解し、現在・将来の小児看護の方向性について学ぶ。	2 年次前期
	小児看護援助論 I	子ども特有の疾患の病態・症状・診断・治療について学ぶ。	2 年次前期
	小児看護援助論 II	病気・障害を持つ子どもとその家族に対応した QOL 向上への看護実践について学ぶ。	2 年次前期
	母性看護学概論	母性看護を実践するための基盤となる、母性看護の特徴と概念について理解し女性を取り巻く社会の現状やライフステージ各期の健康と看護について学ぶ。	1 年次後期
	母性保健	女性の特徴とライフステージでの女性固有の特徴を理解し、周産期において母子及び家族の健康問題と看護について学ぶ。	2 年次前期
	母性看護援助論 I	周産期の特徴と健康問題を理解し個別看護について学ぶ。特に妊娠・分娩・新生児・産褥の正常経過の理解と異常時等の看護援助について学ぶ。また、これから親となるための育児技術と家族関係について学ぶ。	2 年次後期

	履修科目	講義などの内容	時期
基礎分野	母性看護援助論Ⅱ	妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児におよぼす問題について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。	2年次後期
	精神看護学概論	精神障がい者の理解とともに、精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史の変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や権利擁護について学び、精神科看護実践の基礎となる考え方や態度を養う。	1年次後期
	精神保健	精神看護学の観点から、心の健康、健康問題、発達、障がいについて広く学ぶ。個人の心と精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団における心の問題をとらえ、個々がストレスに適切に対処し、危機を乗り越え成長していくためには何が必要か、どのような支援が必要なのかを学ぶ。	2年次前期
	精神看護援助論Ⅰ	精神機能（思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶・認知など）の障害である、さまざまな精神症状および状態像、精神疾患の分類・診断と検査法、それに基づくさまざまな精神障害を学ぶ。また、精神に障害をもつ人々の症状が対象者の生活が阻害されていることに気づき、セルフケア能力を活かした看護のかかわり、援助の方法を学ぶ。	2年次後期
	精神看護援助論Ⅱ	精神の健康上の問題に直面している対象とその家族が心の健康を保ち、健やかに生活を送られるように看護できる技術や対応方法について学ぶ。そして、自分自身や身近な人を大切に思うこと・身近な人と自分自身に関心を持ち、自らの心の健康が保てる力を養う。	2年次後期
	看護研究Ⅱ	講義や実習を通して関心を持った看護現象に焦点を当て、その現象に関する既存の研究論文その他の文献を分析し、研究テーマを抽出し計画を立て研究を実践する。一連の研究プロセスを経験することで、科学的思考力や判断力などを養う。	3年次後期
	チーム医療	医療従事者としてチーム医療に必要な知識を習得し、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。また、実習で体験したチーム医療の現状とチーム医療の知識を統合し、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。	3年次前期
	看護管理	医療チームの一員として組織的・効果的に看護を提供するための看護管理の基本概念を学び、より質の高い看護サービスを提供するための課題発見力・課題達成力・評価能力を習得する。	3年次後期
	災害看護・演習	災害が市民の健康や生活に及ぼす影響について学び、災害発生直後から始まる災害医療における看護職の役割、医療チームにおける多職種との連携について学ぶ。	3年次前期
	看護技術評価	卒業後早期に求められる臨床判断と適切な看護援助を、シミュレーション学習を通して行い、多様な看護場面における課題解決に向けて、既習の知識や技術を統合して、的確な状況判断や行動が出来る基礎的能力を養う。	3年次後期

	履修科目	講義などの内容	時期
臨地実習 (23単位)	基礎看護学実習Ⅰ	看護師の役割を体験から学ぶことで、専門職としての姿勢を身につけることができる。また患者を取り巻く環境を観察し、患者にとって良い環境とは何かを考え、生活環境を整えることができる。	1年次後期
	基礎看護学実習Ⅱ	受け持ち患者の全体像をヘンダーソンの14項目に沿って捉え、全体像を把握し、看護の方向性を見出すことができる。また、受け持ち患者に必要な日常生活援助技術に参加することで、患者にとっての援助の意味を理解することができる。	1年次後期
	基礎看護学実習Ⅲ	対象の基本的欲求が充足できよりよい健康状態（自立）に向けて、一連の看護過程を展開し、問題解決できる基礎的能力を養う。また、対象者や周りの人々と信頼関係を築き、看護者として倫理的な配慮ができる態度を養う。	2年次前期
	地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域のフィールドワークを通して地域で暮らす人々と生活環境を知り、健康で暮らしやすい地域や暮らしづくりについて考える機会とする。暮らしが健康に与える影響について知り、健康課題を把握し、健康と暮らしを支える看護について考える土台づくりとする。 また、地域で生活する人々とその家族の健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である地域の特性や社会資源、ソーシャルサポートについて体験を通して学ぶ。	1年次前期
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	1年次の地域・在宅看護論実習Ⅰで学んだ「地域・生活・暮らし」の概念を活かし、地域で生活する療養者と家族に対する在宅ケアの実際を通して、在宅における看護の提供方法を理解する。又、多職種との連携の実際から地域・在宅看護における看護の役割と専門性について理解する。	3年次前期
	成人看護学実習	働き盛りの成人期にある対象の健康を支える行政の活動などの社会の仕組みを知りその人自らが健康増進に向けて対処できるようなサポート体制を考え看護の役割を考察することができる。 成人期の役割を持ちながら慢性の経過をたどり、生涯にわたり病状・生活のコントロールを必要とする対象及び家族を理解し、必要な看護を考えることができる。	2年次後期
	老年看護学実習	高齢者を総合的・多角的に理解し、認知症高齢者に相応しい医療・ケアについて考え、その人らしさを大切にしたい看護が展開できる基礎的能力を養う。	2年次後期
	小児看護学実習	様々な発達段階と健康レベルにある小児および家族の健康問題を、保健・医療・福祉・教育の視点から幅広く捉え、必要な看護援助を展開する。また、小児の医療に関わる多職種チームの一員としての看護職の役割について学び看護実践する。	2年次後期
	母性看護学実習	母性看護の対象理解を深めるとともに、地域で子育てを行う女性・子ども・家族の健康に関する課題と看護の役割について学ぶ。また、マタニティーサイクルにある女性と新生児を受け持ち、既習の知識・技術に基づいた看護を実践する。	2年次後期
	精神看護学実習	精神疾患を抱え、日常生活や対人関係に障害をきたしている対象者を理解し、治療的な対象者－看護師関係をもとに展開される精神看護の実践を通して、看護の方法と役割を学ぶ。更に、精神科におけるチーム医療や多職種連携について学ぶ。	3年次前期
	クリティカルケア看護実習Ⅰ	急性期にある患者の身体的・心理的状況、社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する基礎的看護を学ぶ。入院から退院に向けて関わる多職種チームの一員としての看護の役割について学び、実践する。主に、ER・集中治療部実習。	2年次後期
	クリティカルケア看護実習Ⅱ	急性期にある患者の身体的・心理的状況、社会的背景を理解し、対象者の尊厳を守りながら回復を促進する基礎的看護を学ぶ。入院から退院に関わる多職種チームの一員としての看護の役割について学び、実践する。主に周術期実習。	3年次前期
	看護の統合と実践Ⅰ	高知県の中山間地域で生活する人々の健康課題を明確にし、地域包括ケアシステムの実践を学び、看護職の視点で考えを深め、看護の未来を創造できる。	3年次前期
	看護の統合と実践Ⅱ	保健医療チームにおける看護師の役割を自覚し、責任ある行動が取れる能力を養う。また、対象の状況に応じて、知識や技術を統合して実践できる基礎的能力を養う。	3年次後期